



国道4号仙台・箱堤交差点

# 巨大陸橋 一夜で現る



東北最大級の国道4号仙台バイパス箱堤交差点(仙台市)の立体化事業で、交差点の上に陸橋を架ける工事が2日夜から3日未明に行われた。雪がちらつく中、長さ約85㍍、重さ約600トンの橋桁の架設を一夜で無事に終えた。

交差点北側で、専用の装置を取り付けた橋桁を1分間に1㍍のペースで送り出し、市道の上を約65㍍渡す工法を採用。一部の通行を規制した上で、作業は2日午後10時ごろに始まり、3日午前4時55分ごろに南側の橋脚に乗せた。

様子を見守った大学生島田新太郎さ

ん(19)＝太白区＝は「生活に直結する土木工事を目の前で見られて、寒かったが貴重な経験だった。立体化のイメージが湧かないので完成後に車で走ってみたい」と話した。

長さ285㍍の高架橋で立体化された新たな箱堤交差点は2024年度中に開通する見込み。東北地方整備局仙台東国道維持出張所の対馬聡建設監督官は「朝晩の渋滞にストレスを感じる利用者のためにも一日も早く開通させたい。東北でも通行量の多い交差点での工事。引き続き緊張感を持って取り組む」と述べた。

箱堤交差点の立体化事業は19年度に始まり、総事業費は約120億円。同交差点を挟む国道4号の卸町交差点―苦竹インターチェンジ間(1.4㌔)は原則、現在の6車線(片側3車線)から高架、平面それぞれ4車線(片側2車線)に拡幅される。

現地では21日夜～22日朝も通行規制し、橋桁を固定する工事を行う。



⑤箱堤交差点で一夜にして架けられた橋桁は3日午前4時45分ごろ、仙台市内の朝の渋滞が始まった箱堤交差点。中央の青い部分が一晩で架けられた4車線分の橋桁。北から南を望む。3日午前7時30分ごろ、仙台市内

